

平成26事業年度評価

添付資料

独立行政法人海技教育機構

添付資料一覧

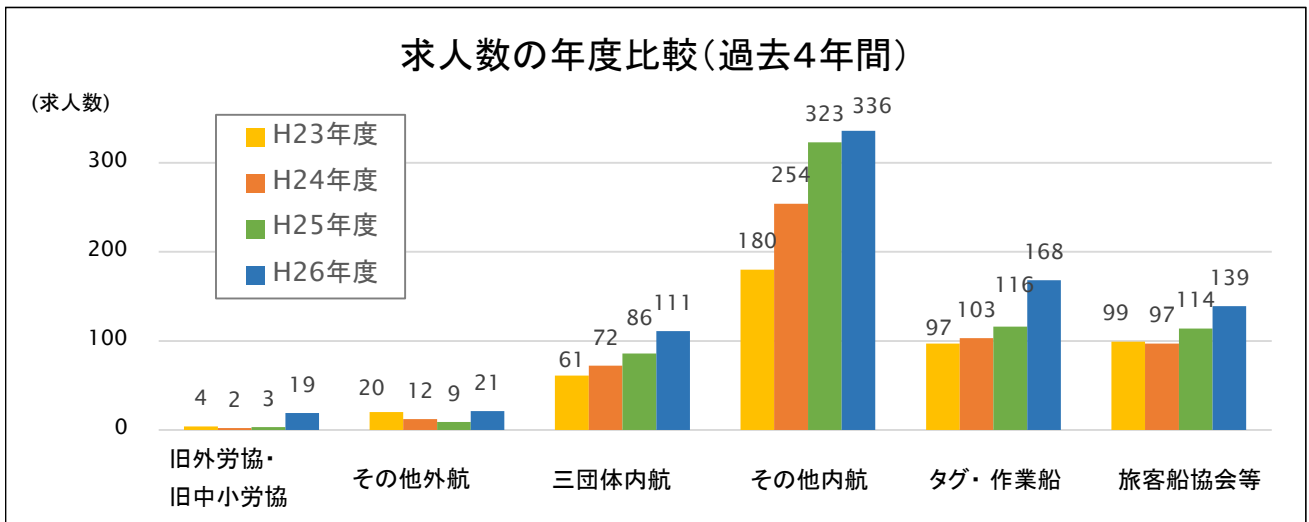
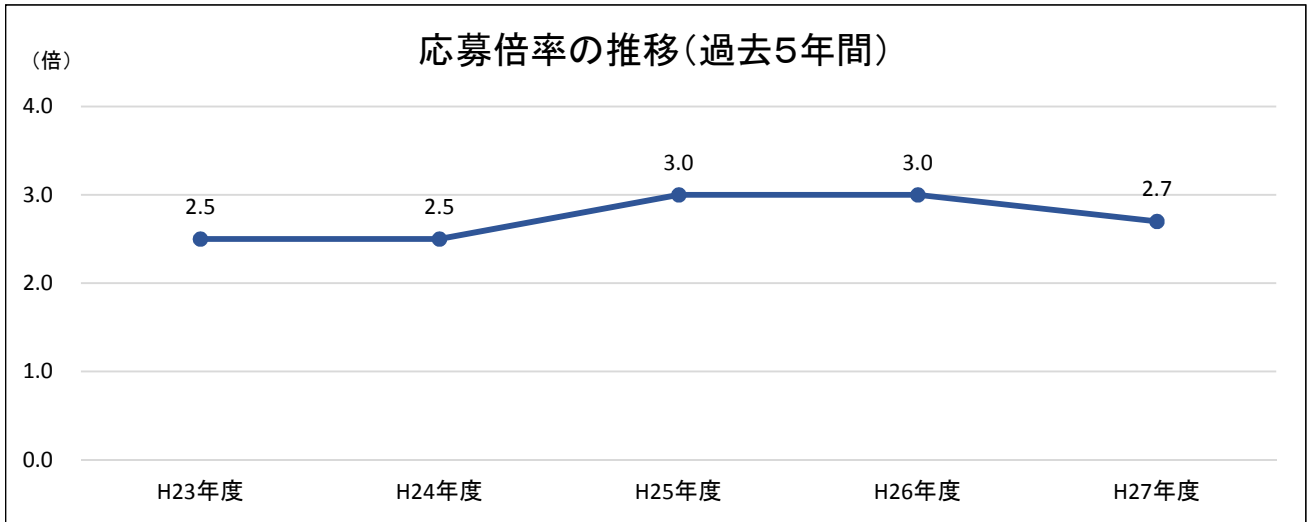
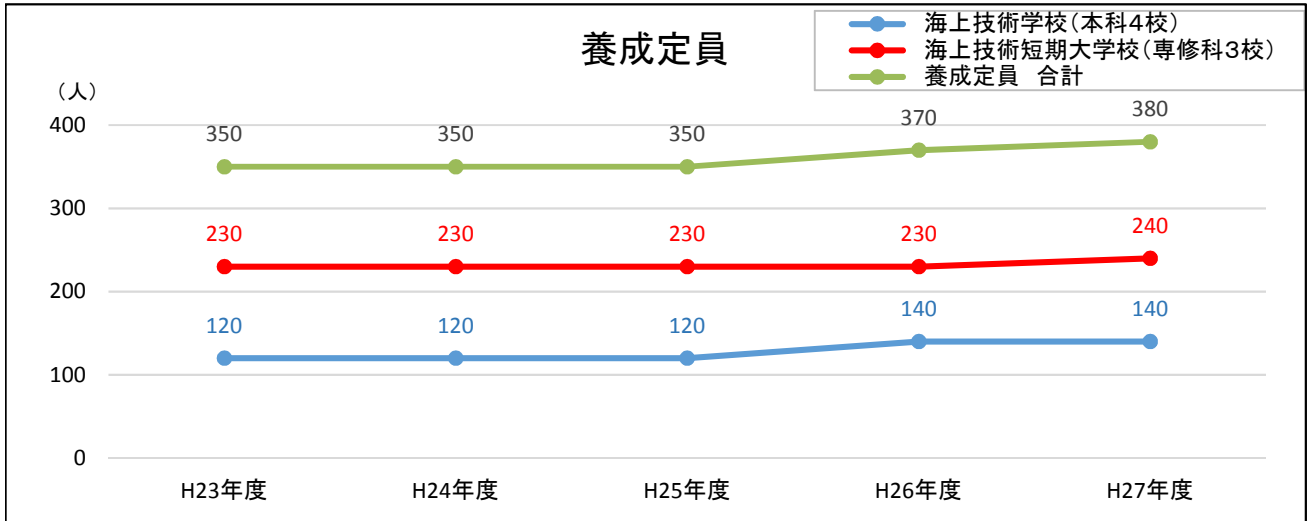
- 添付資料 1 : 養成定員の見直し
- 添付資料 2 : 視聴覚教材一覧
- 添付資料 3 : 海技士国家試験の合格実績
- 添付資料 4 : 資質教育における取組
- 添付資料 5 : 寮生活アンケートの調査の結果
- 添付資料 6 : 保護者アンケートの調査の結果
- 添付資料 7 : 船員になるために（船員としての心得テキスト）
- 添付資料 8 : 海事関連企業等への就職率
- 添付資料 9 : 就職に関する取組
- 添付資料10 : 海運業界からのニーズ又は意見
- 添付資料11 : 社船実習の実施状況
- 添付資料12 : 各学校の研修の取組
- 添付資料13 : 各学校の募集活動に関する取組
- 添付資料14 : 入学応募者数・応募倍率の推移
- 添付資料15 : 研究項目一覧
- 添付資料16 : 研究成果発表一覧
- 添付資料17 : 各学校の海事思想普及に関する取組
- 添付資料18 : 人事交流の実績

養成定員の見直し

○内航業界就職者の5割を、海技教育機構が輩出

○地域事情及び業界ニーズを踏まえ、効率的な船員養成が可能となるよう検討

「船員（海技者）の確保・育成に関する検討会報告」（平成24年3月）



視聴覚教材一覧

航海科		作成年月
航路航行関連	浦賀水道航路	平成24年12月
	明石海峡航路	平成26年2月
	備讃瀬戸東航路	平成26年2月
航海当直関連	変針要領/報告	平成24年12月
	リーサイド当番要領/報告	平成25年5月
出港関連	船尾配置	平成25年5月
投錨関連	船橋配置	平成26年2月
	船首配置	平成24年12月
抜錨関連	船橋配置	平成26年2月
	船首配置	平成26年2月
航路標識関連	灯火の灯質	平成24年12月

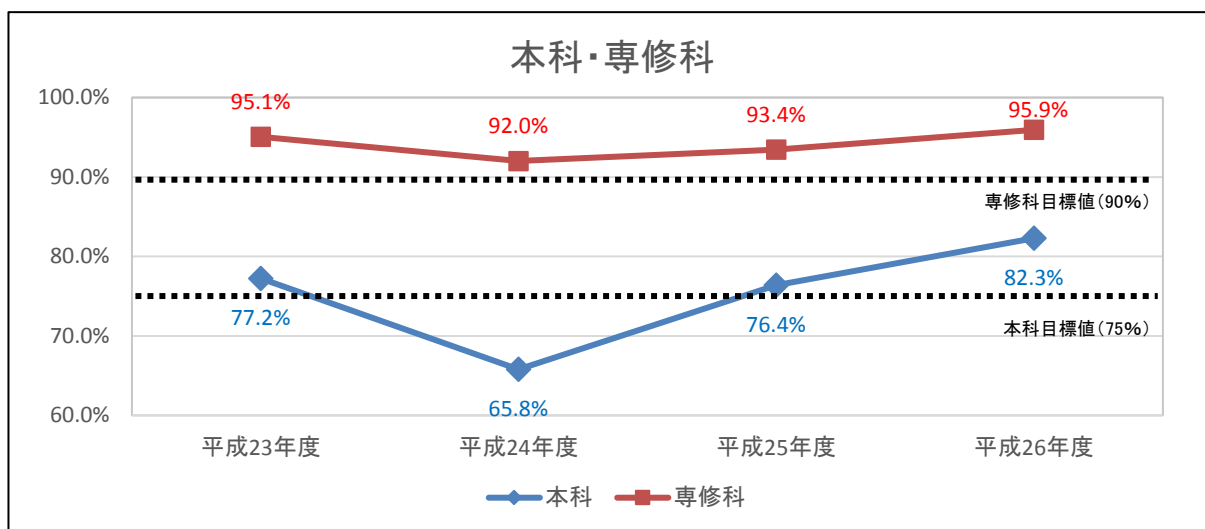
機関科		作成年月
ディーゼル機関関連	ピストン抜き出し作業	平成24年12月
	(ピストン抜き出し作業後の)各掃除、計測作業	平成25年5月
	ピストン復旧作業	平成25年5月
	シリンダヘッド整備作業	平成25年5月
	(ピストン復旧後の)主機試運転	平成25年5月

船内生活・課業		作成年月
船内生活関連	船内生活(前篇)	平成25年5月
	船内生活(後篇)	平成25年5月

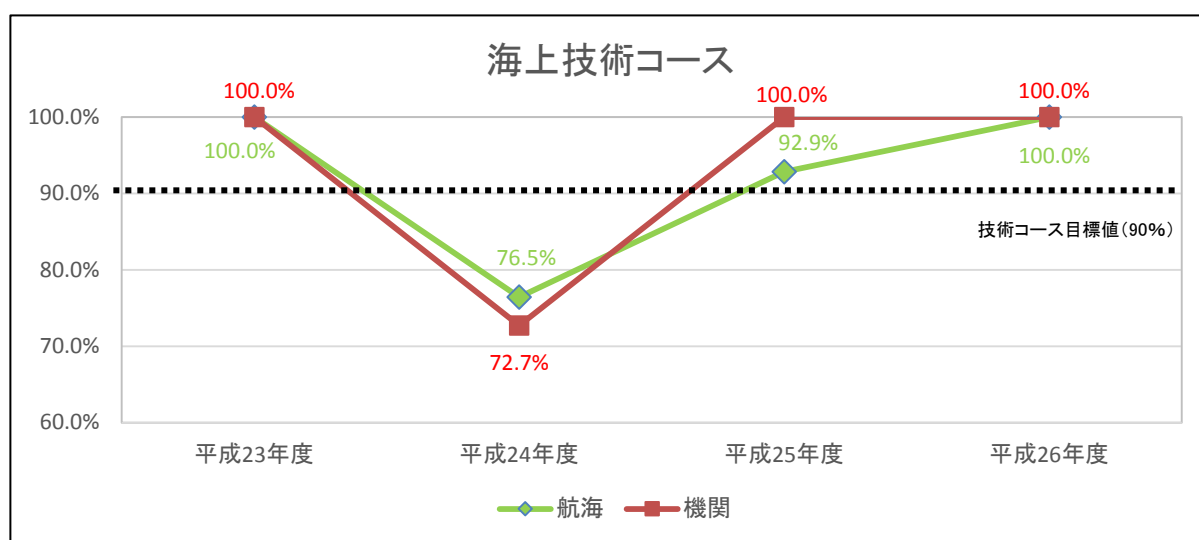
海技士国家試験の合格実績

○合格率

四級海技士（航海・機関両方の合格率）



三級海技士（航海又は機関の合格率）



○取組

海技資格取得向上のための取組

- i 基礎学力の向上
 - ・「数トレ」や「漢字ドリル」などで指導し、基礎学力の向上を図るとともに学習意欲を向上
- ii 指導方法の工夫
 - ・生徒・学生の学力レベルに応じた補講の実施
 - ・個人補講の実施
 - ・本番さながらの模擬口述試験を通し、服装や言葉遣い等に対する指導を徹底
 - ・タブレットやパソコンを活用した指導の実施
- iii 問題集の精選や見直し
 - ・過去に出題された問題を精選し問題集を作成
- iv 航海両方の資格取得の価値観の意識付け
 - ・授業や就職指導を通し、航海・機関両方の資格を取得することの重要性を説明

資質教育における取組

寮生活を通しての主な取組

- ・ 多くの生徒と接することで協調性を養うよう、生徒の希望も汲んだ定期的な部屋替えを実施。
- ・ 巡検前の部屋掃除を確実に遂行することで積極性を養うことを目的として、「優」「良」「可」の3段階で評価し、2週間連続で「優」となった部屋を表彰。
- ・ 当番任務を確実に遂行することで責任感を養うことを目的として、当直学生に当直日誌に加え、潮汐・日出没等航海諸元を調べ専用日誌に記載するよう指導。

生徒会、各種委員会活動による取組

- ・ 忘れ物スペースの設置、洗濯機の月に1度の除菌洗浄、新聞の整理、寮不良箇所の整備など、生徒会を通じて各専門委員会で環境整備を行い、積極性を養うことにした。
- ・ 生徒会を中心とした朝のあいさつ運動を継続して実施し、生徒一人一人の様子の確認や服装、言葉遣いを指導することにより、船員としての資質を涵養。
- ・ レガッタ大会や学校主催で年1回実施している登山への参加を通じて、忍耐力など様々な資質を養っている。

生活指導上の取組

- ・ 自立性や協調性の涵養を図り、入学時に寮規則や懲戒に関する規則を示すことで、学生寮における団体生活の意義をより明確化。
- ・ 責任感や礼儀等の船員としての資質の向上を目的として、海上実習時には係を設け、整列・点呼、服装、時間厳守等を繰り返し指導。
- ・ 始業前に練習船機関部の点検と気象観察を実施することで船員としての資質を涵養。

その他の取組

- ・ 夏休みに3冊以上の読書をさせ、その中の1冊で感想文を書かせることにより、論文作成力を養った。

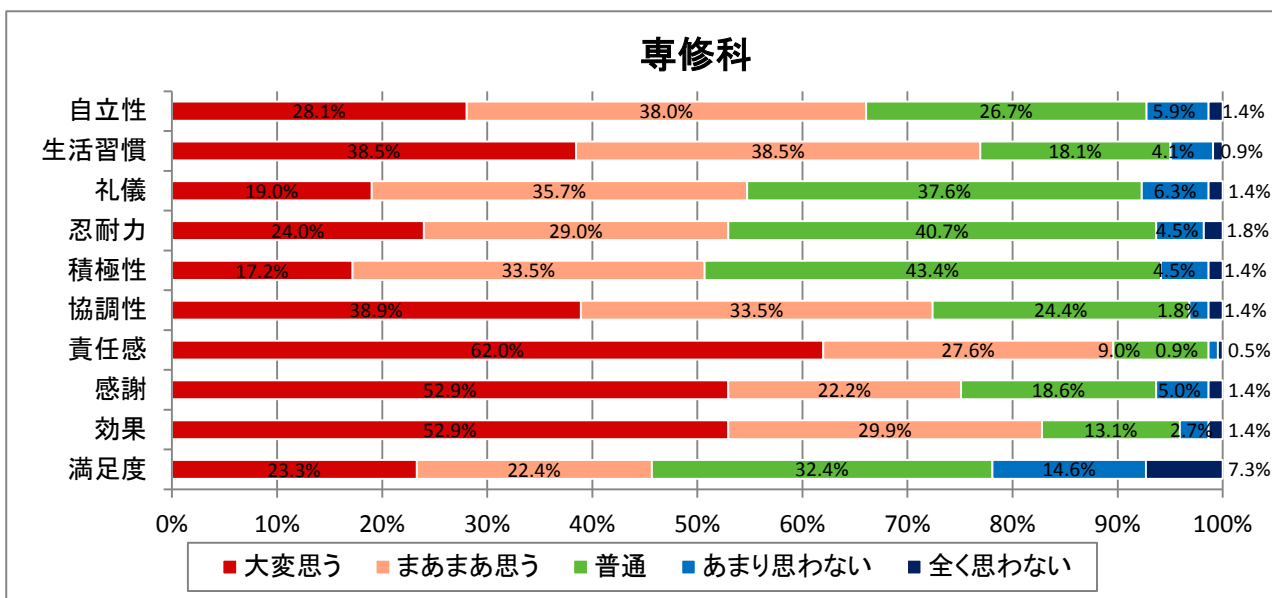
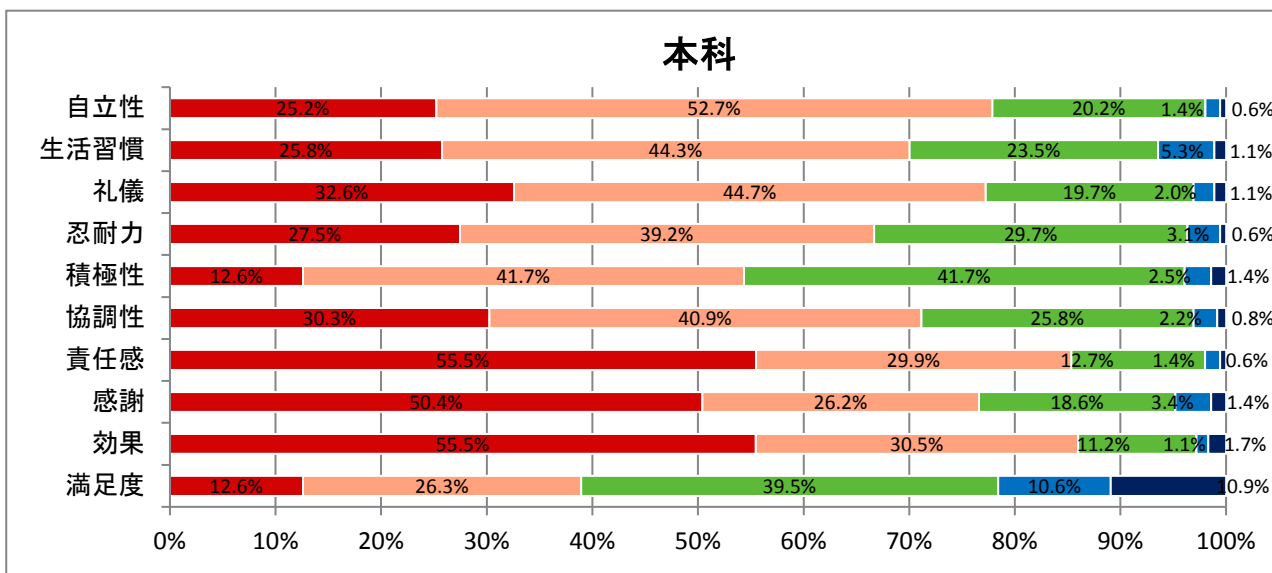
寮生活アンケートの調査の結果

1. 回答率: 100%(本科・専修科:578人/578人)

2. 設問

- 自立性: 寮で生活するようになって、何でも自分でできるようになりましたか。
 生活習慣: 寮で生活するようになって、規則正しい生活をするようになりましたか。
 礼儀: 寮で生活するようになって、礼儀正しくなりましたか。
 忍耐力: 寮で生活するようになって、がまん強くなったと思いますか。
 積極性: 寮では、当番や係の仕事を進んでやっていますか。
 協調性: 寮では、他の生徒(学生)と協力し、仲良くするようにしていますか。
 責任感: 寮では、自分の仕事をきちんとしないと、周囲に迷惑がかかると思いますか。
 感謝: 寮で生活するようになって、家族のありがたさが分かるようになりましたか。
 効果: 寮での生活の経験は、自分の将来に役に立つと思いますか。
 満足度: 総合的に見て、寮での生活に満足していますか。

3. 回答結果(グラフ)



4. 回答結果について

本科、専修科ともに、「責任感:自分の仕事をきちんとしないと、周囲に迷惑がかかる」
「効果:寮生活の経験が将来役に立つ」など
寮生活に意義は認めているが
「積極性:当番や係の仕事を進んでやっているか」では
低い結果となっている。
また、寮生活の満足度では
「大変思う」、「まあまあ思う」
との割合が5割以下となるなど、寮生活の満足度は低いという結果であった。

5. 寮生活に対する主な回答(自由回答)

①良い点

・ 規則正しい生活をとoshi、挨拶や協調性が身に付いた。
・ 楽しい学校生活を送ることができる。
・ わからないことを教員や友人にすぐに聞ける。

②悪い点

・ 寮内が汚い、うるさい。
・ 食事が不満(美味しくない、冷たい、少ない)。

③改善して欲しいこと

日課関係	消灯時間を延長してほしい。
給食関係	食事(メニューなど)を改善してほしい。
設備関係	設備(電化製品、自動販売機等)の充実及び改修をしてほしい。

④その他

・ 風呂の時間を守らない等、規則を守らない生徒がいる。
・ 集団生活の大変さ、時間を守ることの大切さが分かった。

6. アンケートに基づく改善

・ 寮生活を船内 生活に順応するための訓練の場と捉え、規律の遵守等についても、より船内生活を意識した指導を行っている。
・ 給食会議等で意見交換を行い、生徒の意見を伝えた。
・ 洗濯機の入替や便所污水管の改修工事等を順次行っている。

保護者アンケートの調査の結果

1. 回答率： 62.2% (255人/410人)

2. 設問

環境整備： 学校は清掃が行き届き、よく整備されていると感じますか。

生徒の雰囲気： 生徒は挨拶ができ、明るく健全な雰囲気が感じられますか。

教職員の対応： 教職員の対応は誠実で、信頼できると感じますか。

教科指導： 教員は、授業に熱心に取り組み、分かりやすい授業をしていると感じますか。

生徒指導： 学校は、生徒指導に熱心に取り組み、その成果が表れていると感じますか。

進路指導： 就職や進学に関する情報提供や指導が、適切に行われていると思いますか。

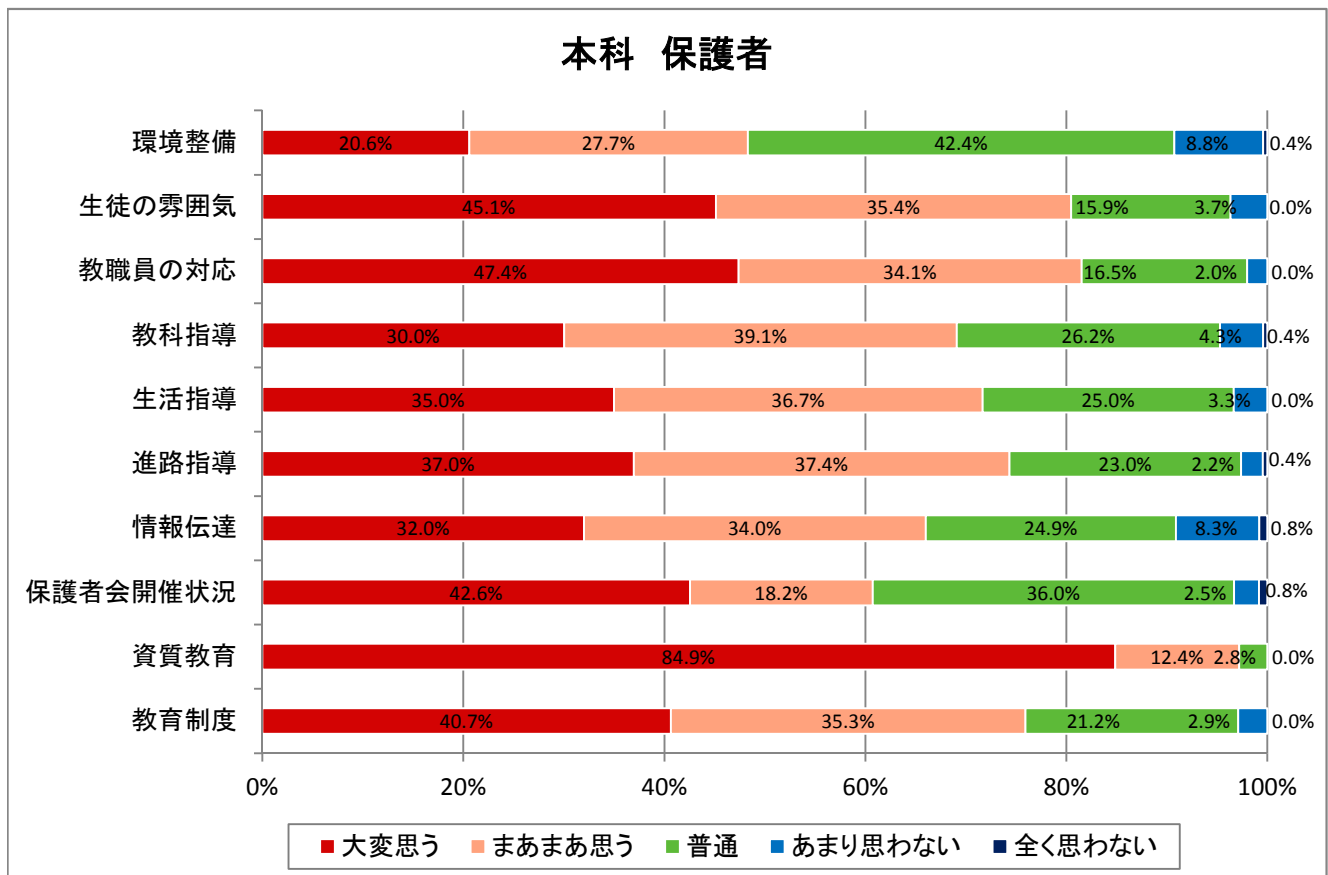
情報伝達： 学校からの情報は、学級通信やHP等により、適切に家庭へ伝えられていると思いますか。

保護者会開催状況： 保護者会や参観日の開催回数や内容に満足していますか。

資質教育： 寮生活や実習実技など在学习中の経験が、社会に出ていく上で役に立つと思いますか。

教育制度： 学校は、海技士資格、高卒同等資格などの各種資格取得制度について、その重要性の説明や補講などによる指導に努めていると思いますか。

3. 回答結果(グラフ)



4. 回答結果について

「生徒の雰囲気」「教職員の対応」「資質教育」などの項目については、好評価とする回答が約8割を占める一方で、「環境整備」「情報伝達」「保護者会開催状況」についての評価は低い。
保護者と学校の連携を一層深めていく。

5. 学校に対する意見

①入学後の子どもの変化

・ 自立心や責任感が育ってきた。
・ 家族に対する思いやりが出てきた。
・ 礼儀がしっかりしてきた。

②子どもに期待していることや改善して欲しいこと

・ 生活態度(服務・規律)を正しくして欲しい。
・ 目標を持って取り組んで欲しい。
・ 卒業まで一生懸命努力して欲しい。

③学校に期待していることや改善して欲しいこと

・ 就職や進学(補講含む)のサポートをして欲しい。
・ 食事内容を改善して欲しい。
・ 設備環境を改善して欲しい。

④その他

・ 先生方にはとても感謝しています。今後ともよろしく願いいたします。
・ ホームページの更新を含め、情報をもっと多くして欲しい。

6. アンケートに基づく改善

・ 引継ぎ簿を改良したことにより、生徒の問題行動が共通認識できるようになった。
・ 「給食アンケート」結果を元に、生徒の様々な要望を伝え、給食委託業者に可能な限り対応を行ってもらった。
・ 環境整備については、予算の範囲内で設備の更新、修理、手入れを行った。

船員になるために

— 船員の心得と学校生活 —

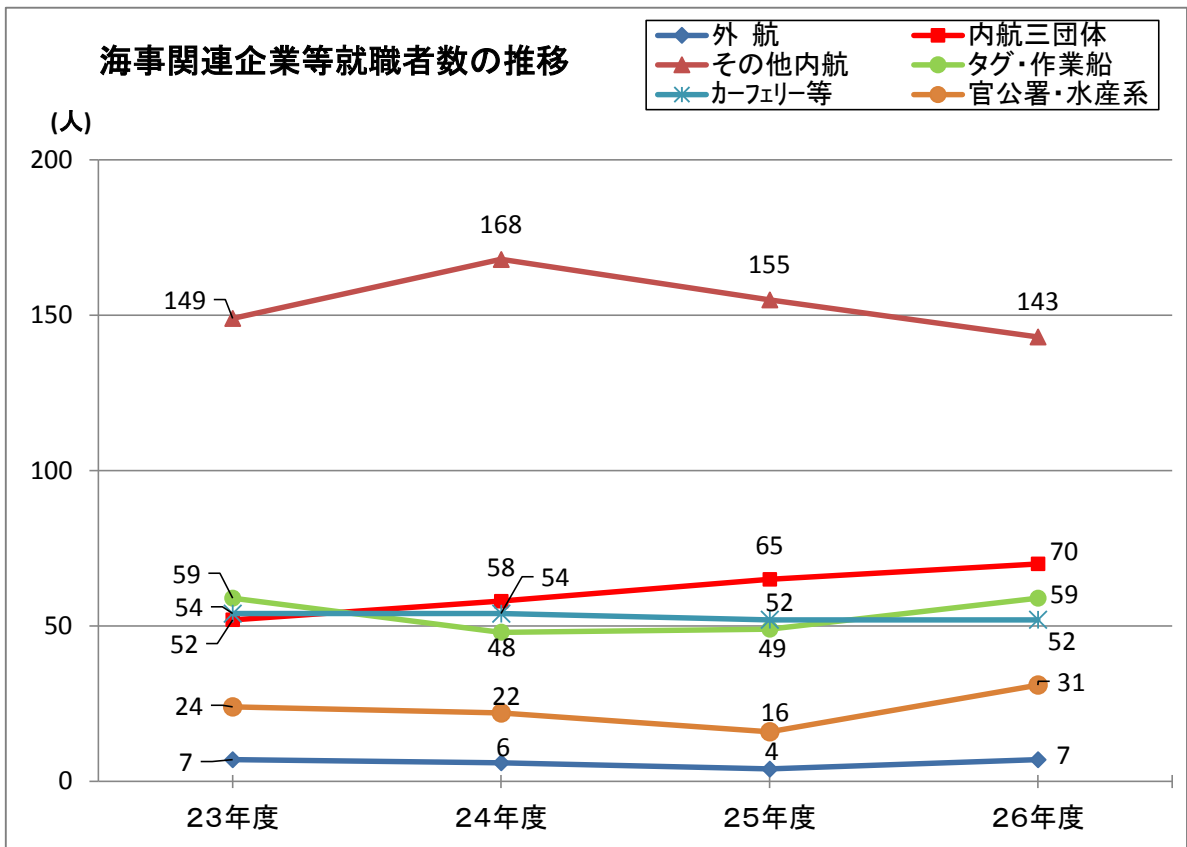
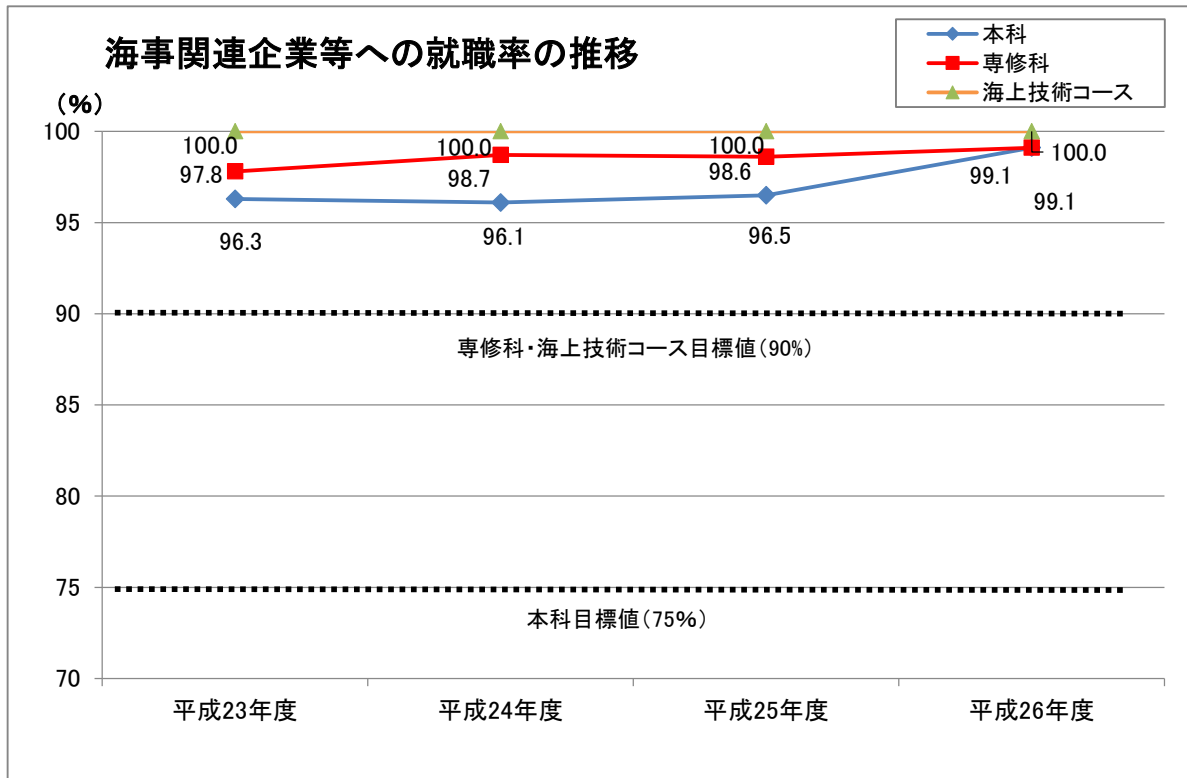


独立行政法人海技教育機構

目 次

	頁
1. 社会人としての心構え	1
(1) 社会人になるということ	
(2) 社会人の一般的心得	
(3) 在学中の心構え	
2. 船員の職務と心構え	2
(1) 船員の職務の特殊性	
(2) 船員に求められる資質	
(3) 具体的なマナー	3
(4) してはならないこと	6
3. 学校生活で身に付けること	8
(1) 船員になることを意識した生活	
(2) 寮生活	
(3) 授業・実習	
(4) 規律の遵守	
(5) 自己評価のチェックリスト	9
4. 会社訪問等の注意事項	10
(1) 会社訪問	
(2) 就職試験	
(3) 練習船航海実習	
5. 参考資料	11
(1) 「船員としての資質」	
(2) 「新人船員に求める能力・資質」	
(3) 寮生活が学生にもたらす効果	12
(4) 新卒採用に関するアンケート	
(5) 関係規程	13

海事関連企業等への就職率



就職に関する取組

○就職説明会等への学生の参加・・・1,613名

開催名	主催	参加人数
海技者セミナー	地方運輸局	599
九州運輸局出前講座	九州運輸局	79
日本内航海運組合総連合会講演会	日本内航海運組合総連合会	37
全国内航タンカー海運組合講演会	全国内航タンカー海運組合	412
学生との懇談会	全国内航タンカー海運組合四国支部	79
内航講師による講演	海技教育財団	80
内航海運について	関東地方船員対策協議会	69
船員就職セミナー	中部地方船員対策連絡協議会	105
学生との懇談会	愛媛地方船員対策連絡協議会	12
内航海運について	田淵海運株式会社	102
上五島石油備蓄基地説明会	上五島総合サービス	39

○海事関係団体・海運会社等との意見交換会・懇談会・・・75回

主な相手方
日本船主協会、各地方船員対策連絡協議会、全国内航タンカー海運組合、全日本海員組合 商船三井フェリー(株)、イノガストランスポート(株)、(有)三原汽船、 他海事関係団体、海運会社多数

○職員による会社訪問・・・73回、248社(新規開拓62社を含む)

○求人依頼文書発送・・・561社(新規開拓29社を含む)

○業界紙への広告掲載・・・1回(内航海運新聞)

○内航船乗船体験・・・体験者77名、受入社数39社、受入隻数55隻

船種	体験者数	受入社数	受入隻数
自動車運搬船	9	3	4
RORO船	21	11	14
貨物船	10	7	9
コンテナ	2	1	1
石灰石運搬船	3	2	2
セメント船	10	5	5
タンカー	21	13	19
タグボート	1	1	1

※同一船舶に複数名乗船しているため、表の受入社数の合計は、実績値と合致しない。

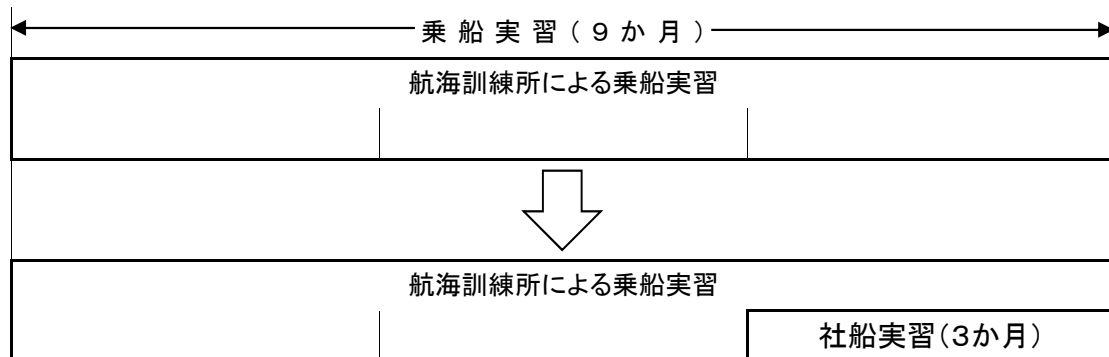
海運業界からのニーズ又は意見

船員の資質に関すること
・ 新人船員として、向上心、レベルアップ、コミュニケーションが大切
・ 大きな声で挨拶できることが大事
・ 挨拶や道徳に関する教育をして欲しい
・ 明るく素直であることと、人に対する接し方を学んで欲しい
・ 知識より勉強をしようという姿勢を育てて欲しい
・ 努力する人は大きく伸びる、職員登用は学歴ではない
・ 部屋にひとり閉じこもらないで、他の人に話しかけて欲しい
・ 危険な作業があるため怒る事もあるが、負けないこと
・ 仕事に対する責任を持って欲しい
・ どのタンカー船でも規律をしっかり守って欲しい
・ 女性だからという意識を無くし、一生懸命やることが大切
・ 3ヶ月乗って1ヶ月休みという勤務体系に慣れて欲しい
知識・技能の習得に関すること
・ 船種による通常業務または特別な作業の違いなど、少しでも実態を教えて欲しい
・ 基本的なことを教えて欲しい（航海であればクロスベアリングなど）
・ 海図の灯質などの英語表記が解るようにしてもらいたい
・ 機器類について、常に正常な状態で動くようなメンテナンスを心掛けて欲しい
・ 文章を書けるようになって欲しい（報告書の作成など）
・ パソコンの取り扱い（特にエクセル）に熟知してもらいたい
・ メモを持っているがメモをとれない、メモを取る習慣を身につけて欲しい
・ 両用教育をもう一度考えて欲しい（両方持ってきても役に立たない）
安全意識の習熟に関すること
・ 常に周囲の状況に気を配り、冷静に物事に対処できるようになって欲しい
・ 安全面を考慮し、決められた場所以外での火気の使用は禁止
・ タンカーでは危険物取扱者の免許は特に必要ないが、職員は講習を受ける
資格に関すること
・ 必要な資格は四級海技士だけで良いが、入社してからいろいろ取得して欲しい
・ 3級筆記合格は、在学中一生懸命勉強したことの証明、優先的に採用する
・ 入社までに、上級の筆記試験を取得してもらいたい
・ 上級免状取得は職員へのプロモートの近道、社内規定で船長任命の条件でもある
・ ECDIS講習をやって欲しい
その他
・ 会社訪問をする学生を優先採用したところ、ミスマッチがなくなった
・ 何年か頑張っている先輩の話聞く機会をもって欲しい
・ 船内の受け入れ体制が整えば女子の採用も増える

社船実習の実施状況

海上技術学校の生徒・海上技術短期大学の学生に対する9か月の乗船実習のうち、**後期3か月**について、内航貨物船等による社船実習を導入

〈船員の確保・育成検討会報告：平成24年3月〉



○平成26年度実績

科別	実施期間	船社数	実習生数
専修科	10月～12月	7社	8名
乗船実習科	7月～9月	5社	8名

○実施後アンケートによる主な回答(抜粋)

実習生	社船実習に参加して良かった点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 練習船では知れない実務の仕事内容を事前に知ることができてとても有意義なものだったと思います。 ・ 一対一での指導を受けられよく理解できた。
	改善を希望する点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乗船から下船まで、教育用の教官1名以上を乗せたほうが良かった。 ・ できるだけ自分が乗ることのない船に乗ることがないようにしたほうが良いと感じた。
乗組員	社船実習に参加して良かった点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習生が真面目に一生懸命取り組んでくれたことが、私たちのやりがいに繋がった。 ・ 実習生が荷役準備作業や入出港準備作業を毎航海、まじめにやりながら、だんだんと慣れてきた後、彼らも少し余裕が出て、笑顔も見え、船内が明るく感じられた。
	改善を希望する点	<ul style="list-style-type: none"> ・ カリキュラムの内容が多過ぎるので、具体的に分かり易くしてほしい。 ・ 社船実習に入る前に、学生気分を切り替えて社船の仕事を覚える心持ち(精神面)の指導をして欲しい。

各学校の研修の取組

(1) 学校管理運営上必要とされる研修

研修別	主な研修名	受講者数(延べ)
外部研修	・ 情報公開個人情報保護制度研修	18名
	・ 特別管理産業廃棄物管理責任者講習	
	・ 危険物取扱者講習 など	
校内研修 (教育の統一)	・ カッター乗船研修	26名
	・ アルパシミュレータ操作研修	
	・ 生徒・学生の懲戒及び体罰に関する研修 など	
計		44名

(2) 教育業務の維持に有用な資格取得のための研修

研修別	主な研修名	受講者数(延べ)
外部研修	・ ガス溶接技能講習	16名
	・ 自由研削砥石特別教育	
	・ 普通救命講習 I ・ AED一般普及講習 など	
校内研修 (教育の統一)	・ ECDIS Type-Specificトレーニング	3名
	・ SSO(船舶保安管理者)講習	
	・ CSO(船舶保安統括者)講習 など	
計		19名

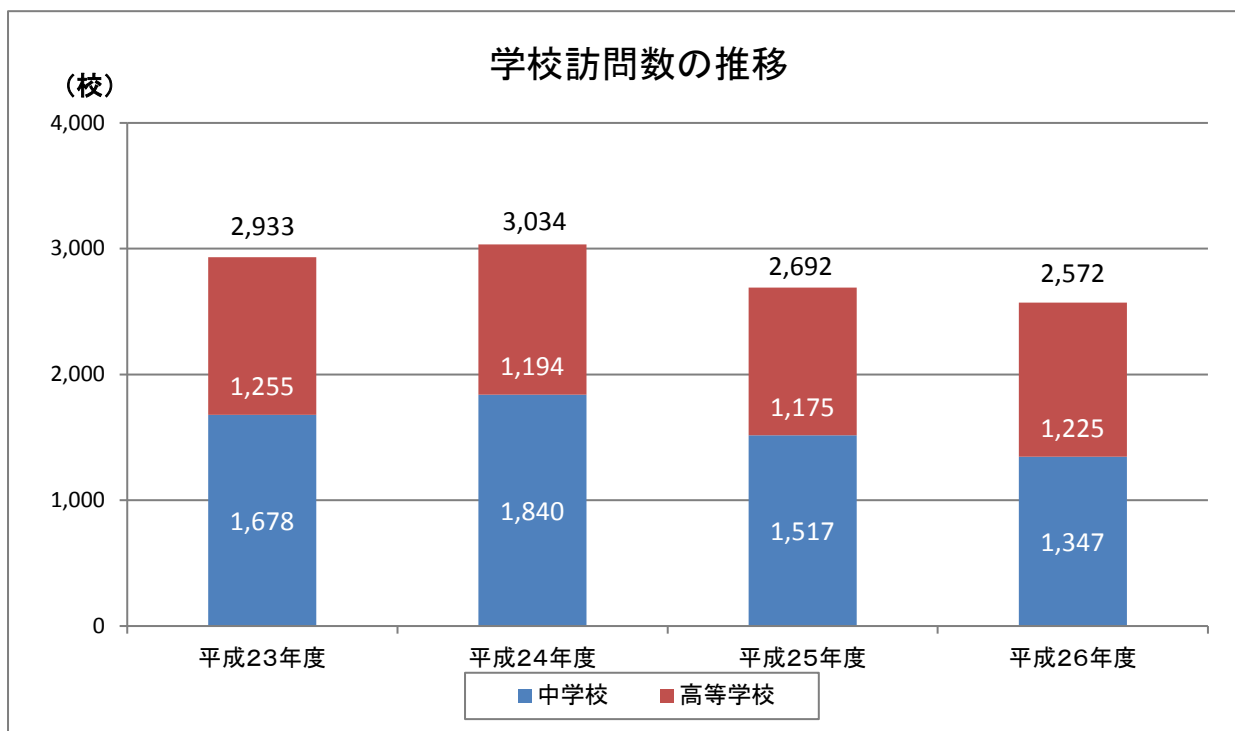
(3) 教員の教育の質の向上のための研修

研修別	主な研修名	受講者数(延べ)
外部研修	・ 新潟原動機デュエルフュエルエンジン研修	33名
	・ ISOの構築と運用に関するセミナー	
	・ LNG船「ENERGY FRONTIR」乗船研修 など	
校内研修 (教育の統一)	・ 新採用者研修	332名
	・ 校内練習船操船研修	
	・ ワイヤーサービング研修 など	
計		365名

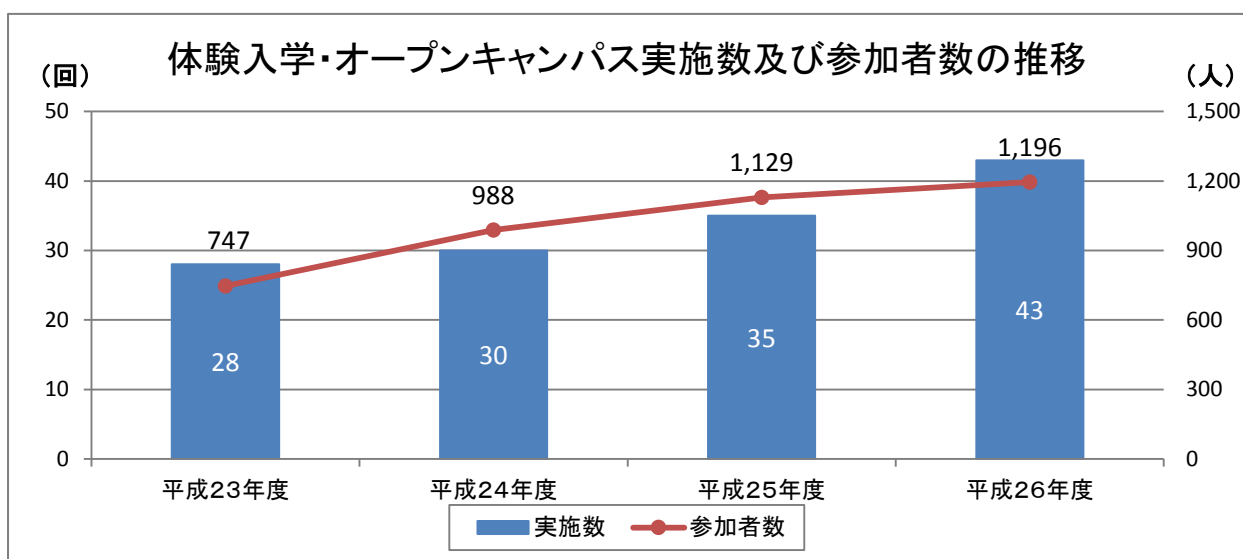
合 計		428名
-----	--	------

各学校の募集活動に関する取組

○学校訪問



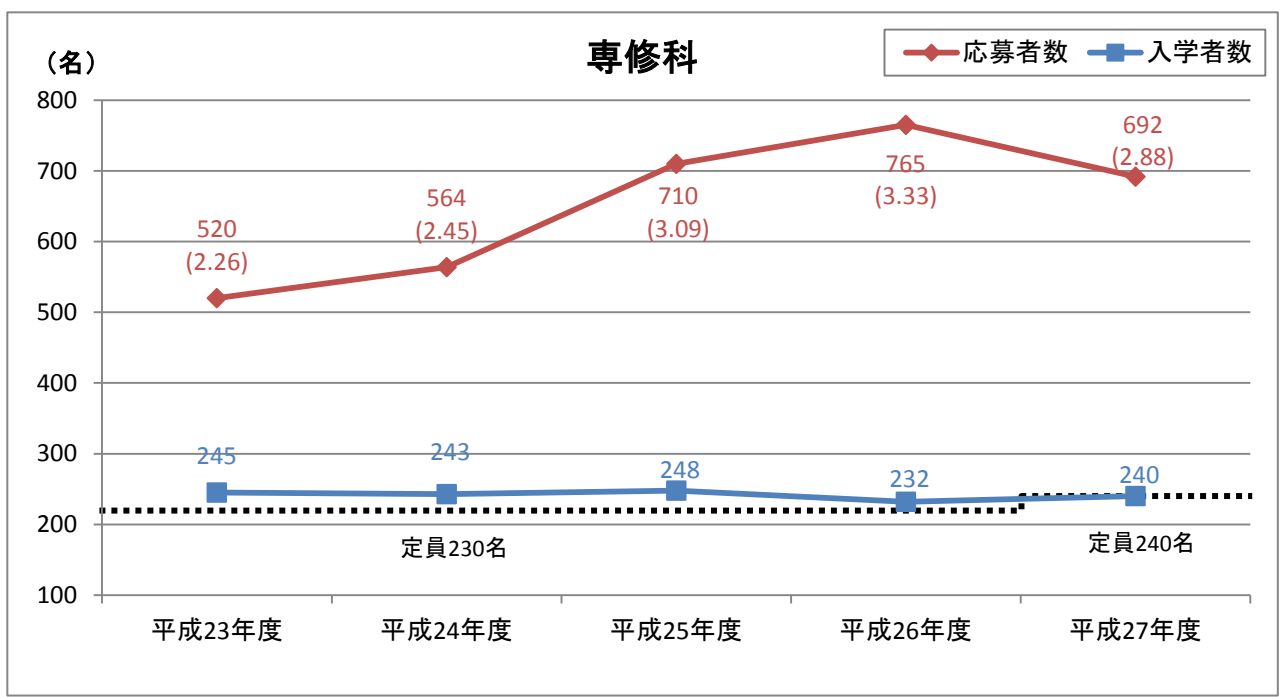
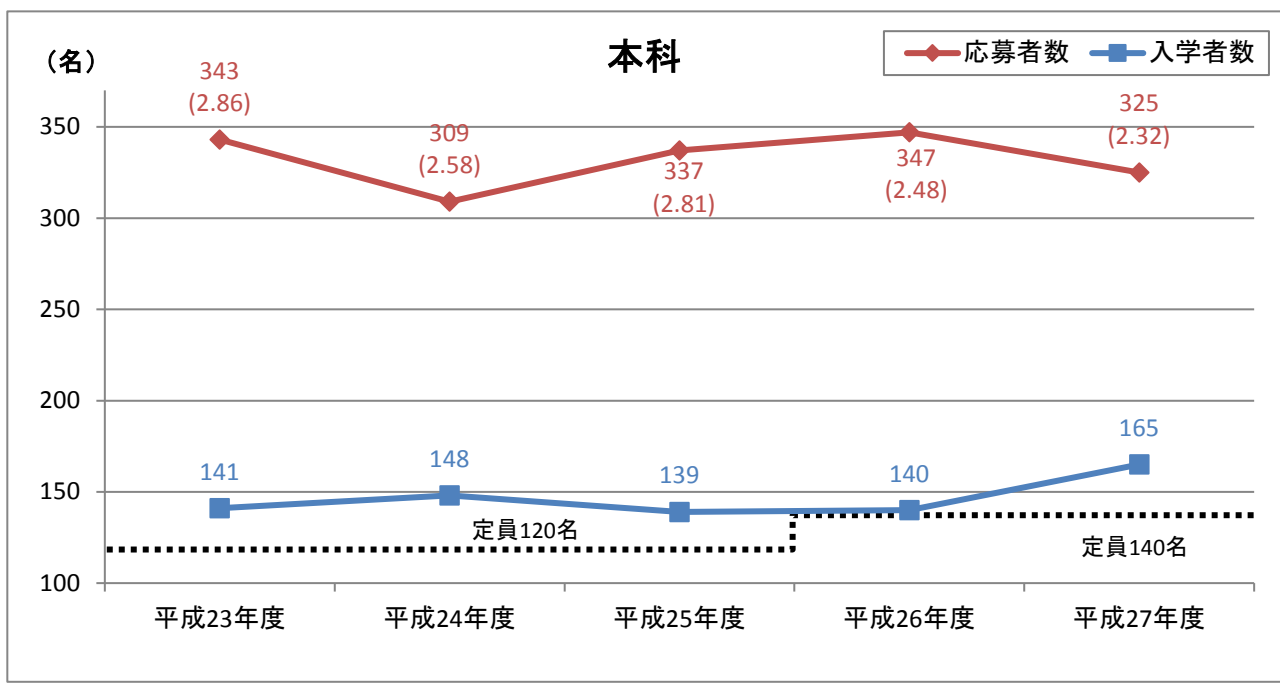
○体験入学・オープンキャンパス



○その他

- ・ 学校説明会への参加: 32回
- ・ 新聞・雑誌・広告等による広報: 216回
- ・ 学校案内等の送付: 延べ27,986箇所

入学応募者数・応募倍率の推移 (平成23年度～平成27年度)



注1) …は定員数である。

注2) ()内は応募倍率である。

研究項目一覧

○国際条約の改正に対応した重点的な研究… 2 件（内新規： 2 件）

研究テーマ名	研究期間※
船舶の運航技術の伝承に関する研究	H26. 4～H30. 3
船舶機関技術の最近の動向と機関士教育・訓練	H26. 4～H30. 3

○海技教育、船舶運航に関する研究… 1 4 件（内新規： 8 件）

研究テーマ名	研究期間※
港内タグボートの安全性に関する研究	H23. 4～H27. 3
船舶機関システムの運転管理に関する調査研究	H24. 4～H27. 3
Engine-room Team Management訓練に関する研究	H24. 4～H27. 3
機関室シミュレータを用いた運航に関する省エネルギー評価について	H24. 4～H27. 3
GPS信号の伝搬特性と測位精度に関する研究	H25. 4～H27. 3
航海情報の統合に関する研究	H25. 4～H28. 3
霧消散予測に関する基礎研究	H26. 4～H27. 3
操船シミュレータ訓練等における調査研究	H26. 4～H27. 3
小型船におけるAIS受信派のマルチパス影響に関する調査研究	H26. 4～H28. 3
ECDISにおける情報レイヤーのユーザビリティに関する研究	H26. 4～H28. 3
漁船と動力船の衝突事故に関する一考察	H26. 4～H28. 3
情報通信システムを利用した離着岸操船支援に関する研究	H26. 4～H28. 3
気液二相流の過渡多次元挙動解明に関する研究	H26. 4～H29. 3
北極海航路の行方	H26. 4～H29. 3

○授業内容に関する研究… 6 件（内新規： 4 件）

研究テーマ名	研究期間※
海事思想の普及へ向けての一試行	H24. 4～H27. 3
分析機器を利用した海洋環境教育に関する研究	H24. 4～H27. 3
太陽電池及び燃料電池システムの船舶電源への導入に関する研究	H26. 4～H29. 3
フライングロボットの船舶における応用	H26. 4～H29. 3
船用ボイラの安全性・信頼性向上に関する研究	H26. 4～H29. 3
海事政策と異文化コミュニケーションに関する研究	H26. 4～H29. 3

※研究期間は、重点研究は4年。一般研究は原則3年以内とする。

研究成果発表一覧

No.	発表タイトル	発表形式	実施日
1	タグボート乗組員の常態化したヒヤリハットについて	著書	H26.7
2	離着岸操船におけるタグボード運用要素の評価		H26.7
3	ジョセフ・コンラッドの日本への関心	学会論文発表	H26.7
4	港内タグボートの安全運用に関する研究		H26.8
5	「イギリス文化事典」における「船舶」について		H26.11
6	Study on the Fusion of National Information toward e-Navigation	国際学会 講演発表	H26.4
7	The Development of Meteorological and Oceanographic and Recording System Operation on training Ship		H26.6
8	Basic study on the application of the fuel cell system operated by Kerosene to vessel		H26.8
9	Study on the Development of Onboard AIS Reception Performance for a Small Boat		H26.8
10	油濁海難事故に備えた法整備	国内学会 講演発表	H26.10
11	GPSコンパスを利用した着岸速度・距離計測システムの開発検討		H26.10
12	ERM訓練の深度化に関する研究-構成と訓練プログラム-		H26.11
13	ERM訓練の深度化に関する研究-アンケートに基づいた検証-		H26.11
14	船用補助ボイラの水質管理に関する一考察		H26.11
15	低流速時の円滑内流動非沸騰熱伝達に関する研究		H26.11
16	Joseph Conradの” Heart of Darkness”と釈 遼空の「死者の書」		H26.12
17	2013年におけるマリンエンジニアリング技術の進歩	研究報告	H26.7
18	港内タグボートの事故およびニアミスについて		H26.9
19	BRM訓練受講者の視点によるシミュレーションシナリオの評価に関する一考察		H27.3
20	BRM訓練に用いるシミュレータ訓練シナリオのレベル定量化手法の検討		H27.3
21	メルヴィル『ビリー・バッド』における語り手の「読み」		H27.3
22	機関シミュレータ及び事例解析を用いたERM訓練の有効性		H27.3
23	漁船と動力船との衝突事故に関する一考察 I		H27.3

発表形式	発表実績
査読付学会論文発表・著書	5
国際学会講演発表	4
国内学会講演発表	7
海技大学校研究報告等	7
合計	23

各学校の海事思想普及に関する取組

マリンフェスタin小樽

日時:平成26年7月20日(日)

場所:小樽築港臨海公園周辺エリア



小樽校教員が、ノットボード教室や小型教習艇及びカッター体験乗船等を開催した。

館山自然塾 沖の島探検隊への協力

日時:平成26年6月28日(土)

場所:国立館山海上技術学校校内



館山校教員等が、操船シミュレータ体験、ロープワーク体験を実施し、地元の小学生など21名の参加があった。

公開講座 (海技大学校で毎年実施)

日時:平成26年11月の毎週土曜日午後

場所:海技大学校内



- ①「海を越えた幕末の志士たち」:52名参加
- ②「燃料電池のしくみと船舶への導入案について」:43名参加
- ③「水の子カラ」:43名参加
- ④「船で経験した不思議な気象」:40名参加

人事交流の実績

事務職員の行政能力向上、教員の指導力向上を図る

◎平成26年度人事交流実績

19名

受入		派遣	
国土交通省海事局	4名	国土交通省海事局	5名
(独)航海訓練所	3名	(独)航海訓練所	3名
国土交通省近畿運輸局	1名	国土交通省北海道運輸局	1名
国土交通省神戸運輸監理部	1名	-	-
川崎汽船(株)	1名	-	-
計	10名	計	9名

◎第2期中期計画の累計(第2期中期計画の目標:50名)

62名

	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		計		合計
	教員	事務員	教員	事務員	教員	事務員	教員	事務員	教員	事務員	
受入	6名	2名	3名	3名	6名	2名	5名	5名	20名	12名	32名
派遣	5名	3名	3名	3名	3名	4名	3名	6名	14名	16名	30名
計	11名	5名	6名	6名	9名	6名	8名	11名	34名	28名	62名